

歴史遺産の地盤工学に関する研究委員会

名越切通の研究視察実施報告書（歴史的石造構造物部会）

- ・日 時： 平成 28 年 11 月 24 日（木） 午後 1～5 時
- ・場 所： 逗子市の国指定史跡「名越切通」
- ・参加者： 正垣部会長，小林委員，昌子委員，藤井委員会幹事

2016 年 11 月 24 日，小林委員のご案内により，逗子市の国指定史跡「名越切通」を見学できました。工事がもうすぐ完了する予定であるため，一週間前に急きょ決定した見学会でした。また当日は季節外れの降雪による交通機関の事情で参加できない委員もみえましたが，足元の悪い中，何とか中世の石造構造物を見学できました。以下に写真を中心に視察内容を報告します。



地図： 地理院地図から作成，各写真の右下地図の場所を赤枠で示す。

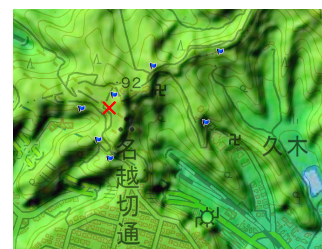


写真 1： 第 1 切通を坂の下から撮影

北へ緩傾斜の層理面を境に，下部が逗子層の泥岩，上部が池子層の砂岩（地質調査所発行の地質図には火砕岩；凝灰質砂岩とある），どちらも漸新世の地層で軟岩に分類できる。

右の地図は地理院地図と 5m メッシュ DEM を利用した色別標高図を重ね合わせてカシミールで作成した。横幅が約 1 km である。

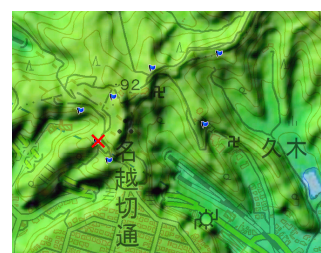


写真 2：平成 16 年に工事を行った壁面。擬岩処理を施した部分は天然の岩石に比べて風化・浸食に強く、やや盛り上がっている。オーバーハング部にはロックボルト工を施し、擬岩で蓋をして隠してある。

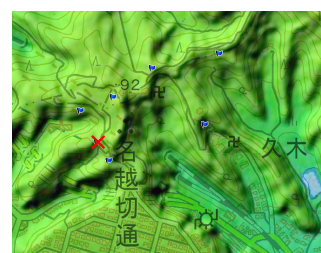


写真 3：関東大震災時にすべったと考えられている岩塊。池子層と逗子層の整合層理面ですべっているようだが、亀裂充填工と擬岩処理が行われているため確認はできない。

これらの切通路は鎌倉時代に造られたとされているが、江戸時代などを通して時代と共に変化していることが、発掘によって明らかにされてきている。

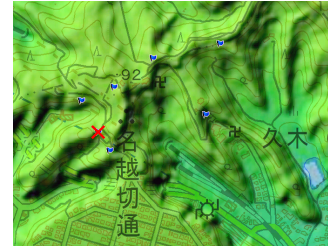


写真4： 木根が岩盤の割れ目に入り込んでいる生物風化の例。充填と擬岩処理を行い、岩盤の表面には強化・撥水処理が行われている。

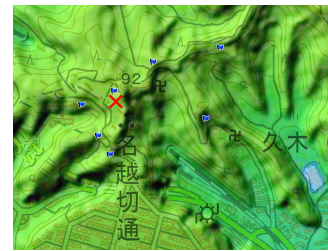


写真5： まんだら堂やぐら群で記念撮影。崖面に横孔を掘り、納骨・供養する施設。周辺部も含めると、約150以上のやぐらからなっている。13世紀末頃から掘り始められ、15世紀一杯まで供養などが行われたと考えられている。

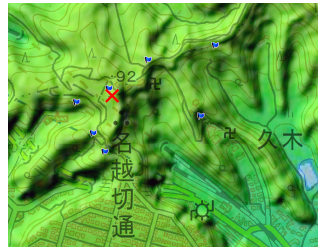
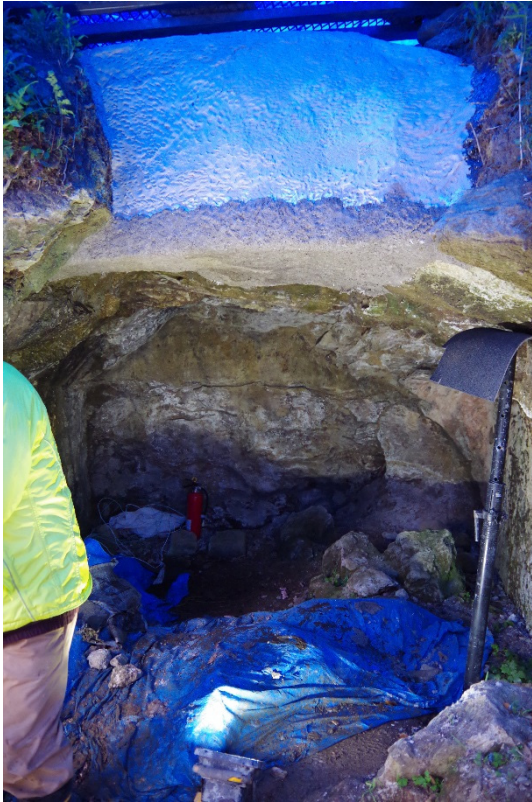


写真6： 修復中のやぐら。落盤で崩壊していた天井を復元している。

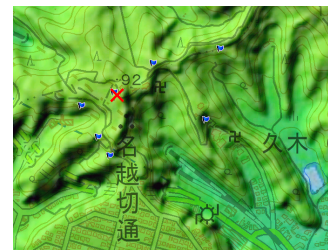


写真7： やぐら内部には五輪塔が供養塔として設置されている。この下に納骨されていると考えられる。やぐら内部では塩類の析出が激しく、やぐらや五輪塔の浸食要因の一つとして問題になっている。

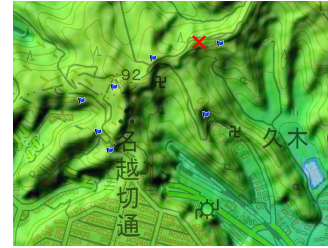


写真8： お猿畠の大切岸．鎌倉石の石切り場跡．長さ 800m 以上にわたって断崖が連続する．

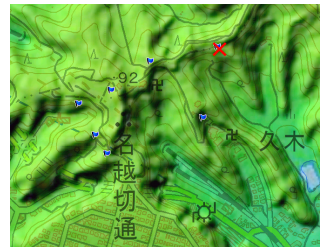


写真9： 窪みの下部には矢穴跡もみられる．従来は鎌倉幕府が三浦一族の攻撃に備えた防御遺構と考えられてきたが，平成 14 年度の発掘調査で石切り作業の跡が確認された．

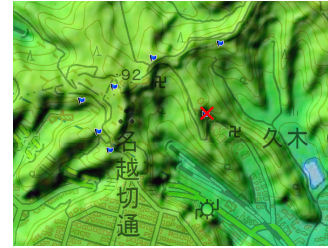


写真10： 鎌倉を追われた日蓮が三匹の白猿に助けられて匿われたという岩窟。お猿島の地名はこの言い伝えによる。法性寺の境内。

急な見学会の依頼にも関わらず、ご快諾いただいた逗子市教育委員会に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

また、降雪の中、まんだら堂をご案内いただいた鴻池組の高松さんにもお礼申し上げます。

参考資料： 逗子市のホームページ「国指定史跡 名越切通」

<http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/syakyou/newbunkazai/nagoe/nagoe.html>

(協力：逗子市教育委員会)